

# 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議

## 東部地域会議 総合戦略に係る事前意見

<p>NPO 法人母力向上委員会</p>	<p>[戦略4]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の市産後ケア事業の参入に向け、今年度国の補助金を受け個別産後デイケアの実施を行い始めたが、需要が想定より多く連日定員になっている。子どもの虐待死の最多は0歳児であることや高齢出産や支援不足で産後すぐに育児の不安や負担を感じる母親も多くなっていることから産後ケアはますます需要が増えることが予想される。現在は市町村の実施であるが、県からの市町村への支援を新設していただくことが、人口の自然増にもつながると考える。</li> <li>・保育園の問題はまだまだ大きいものがある。待機児童数0を目指すはもちろんのこと、待機児童数は0でも、希望の年齢から入れなかったり（特に1歳の枠は狭い）など保育士の増員は大きな課題であると感じる。</li> </ul>
<p>一般社団法人ママとね</p>	<p>【資料3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P.9のふじのくにパスポートやP.11のしずおかジョブステーションなどの仕組みは素晴らしいが、そもそも登録してもらうための仕組み作りが必要。</li> <li>・P.36の空き家プロジェクトは、住むだけでなくビジネス等にも利用できるようにすれば活性化するのではないか。</li> <li>・P.48のふじのくにメディアチャンネルは、カテゴリ分けなど、ニーズに合わせた整理が必要。</li> <li>・P.68の育休取得率は、上がってきているが、目標値達成だけでなく、継続できるかどうか、そのフォローシステムが整っているかまで追っていただきたい。</li> </ul>
<p>株式会社静岡銀行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略4「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」につきまして、目指すべき方向性は「合計特殊出生率の向上」ですが、私が最も懸念している事は、「未婚率の上昇」です。県や市町で取り組んでいる「婚活イベント等」の拡充を含め、「出会いの機会創出」や「結婚や子供を持つことへの魅力アップに関する啓蒙活動」等にも更に取り組みを強化することが必要だと感じております。特に、各市町や近隣市町が連携し、観光活性化策と連動させた婚活イベントの有効性について、検討してもよろしいかと考えます。</li> </ul>

<p>富士信用金庫</p>	<p>&lt;戦略1&gt; 「命」を守り、日本一「安全・安心」な県土を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化に伴って、異常気象が常態化しております。わたくしが住む富士市においてもこれまではあまり気にしていなかった水害がここ数年は毎年のように発生し、多くの方々が被災されています。地域防災については静岡県も対応いただいていることと思いますが、発生頻度が高まっている地域では抜本的な対策が急務と思われるので、水害を含めた災害対策についてご検討をお願い致します。</li> </ul>
<p>加藤学園暁秀中学校・高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略2. 雇用創出 「外国人材の受け入れ促進」 これまで県が主に力を入れてきたのが技能実習生関連の取り組みであったと思います。これに加えて、留学生や移民や難民を積極的に受け入れていくことで外国人材の受け入れを促進し、人口減対策とすることができます。</li> <li>・戦略3 地域活動 移住の促進 静岡県東部は、首都圏への通勤圏内とも言える距離にあり、子育てをするのに適した自然の豊かさや生活の便利さを兼ね備えています。移住するもよし、居住して首都圏へ通勤するもよしといった好条件の地域性を持っています。現時点でも、本校のように幼稚園から高校まで英語で授業を実施し、国際バカロレアの国際教育を実施している特性のある教育を求めて、他地域から移住したり、転居して首都圏に通勤したりする方々はいます。こうした、特徴的な教育機関は、移住のインセンティブになると考えられ、さらに充実させることで、生活の基盤を静岡に移すことを考える方々は増えていくはずで。</li> <li>・戦略3 魅力ある教育環境 現時点での取り組みとしては、大学への留学生としての来日者数を増加させるということが主になっていますが、それに加えて、幼稚園から高校までの日英両言語の学校を増やすことで、インバウンドとアウトバウンドの双方向の敷居が低くなります。つまり、外国人中高留学生の受け入れと日本人中高生の海外留学の促進が容易になると考えられます。また、留学生の受け入れを拡充させて、留学生に日英両言語の習得と日本標準の教育水準の教育を提供します。こうすることで、県への一定額の学費収入を見込むことができます。将来的にはオーストラリアのように教育産業収入を財政の重要部分に位置付けることが可能となると考えられます。 国際基準の中学高校を増やすことで、高校レベルでのコンソーシ</li> </ul>

	<p>アムや高大接続を強化しやすくなると考えられます。また、県内大学での国際バカロレアで学ぶ生徒の特別入試枠を設定し、県内に優秀な人材が留まるような仕組みを構築し、首都圏や海外への流出を避ける手立てを整えることは意義深いと考えられます。</p> <p>・戦略5. 多文化共生社会</p> <p>人口減少社会問題に対応するために多岐に渡った施策が可能になりますが、各国で取り組んでいても日本では進んでいないのは、留学生や移民や難民の積極的受け入れです。現時点では、日本語教室を増加させるなどの取り組みがあり、充実してきています。これに加えて、学校としてできることは、日本語と英語で授業を展開する学校を増やし、海外からの高校留学生を受け入れて、日本語と英語能力を同時に高めてもらうことです。また、高校卒業後、静岡県内外の大学や専門学校に進学し、その後日本に定住していただければいいのではないのでしょうか。また、移民として来日する場合には、幼稚園、小学校、中学校でも同様に英語日本語での教育を実施して、日本への定住に結びつけて行ってもらうことができます。また、こうした人たちは、日本語や英語以外の言語が流暢である場合が多く、そういった言語の文化圏の方々に静岡をアピールしてもらうことができます。</p>
<p>静岡県東部地域 コンベンション ビューロー</p>	<p>・全体として評価結果を見ると、成果を測る指標は、現状値が目標値を上回るもの、評価A、評価Bに該当するものが多く、また、進捗を測る指標は、◎、○に該当するものが多く評価できる。</p> <p>・当ビューローの業務から主に「戦略3-2 多様な交流の拡大」について注目した。2023年9月に現状値が発表されるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策などの影響を受け、厳しい数値となることは予想できる。ただし、今年度5月8日から新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げが実施されたことや、インバウンド需要の増加が予想されるなどにより、観光交流の拡大が期待でき、見通しは明るいので、今後に期待したい。</p>
<p>一般社団法人 富士山観光交流 ビューロー</p>	<p>資料2の内容について感想・自由意見を書かせていただきます。</p> <p>[地域づくりの方向性]</p> <p>②今後の取組方針（地区別）東部地域（P.17）</p> <p>「住む場所にとらわれない多様な働き方の広がりや移住者の増加に・・・」について</p> <p>このこと（言い方）は、県内全ての地域別取組方針に同じ記述となっています。デジタルの活用により地理的或いは、時間的な要因に関係なく安心して働ける環境をつくり、人口の東京圏への一極集中を是正して地方への分散を図る・移住を促進するこの取組の中で、東京圏から近く魅力的な県東部地域の記述を中部地域や</p>

	<p>西部地域と同じで良いのでしょうか。仕事と暮らしに加え子供の近い将来の進学は、移住者にとって重要な問題だと思います。大学が集中する東京圏に近く子育てしやすい事をもっと売りにして、東部地域への移住を促進する記述にしたらどうかと考えます。</p>
<p>日本大学国際関係学部</p>	<p>[戦略1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これから予想される南海トラフ大地震が起きた際の災害への対処法。資料では、災害対策のシミュレーションでは災害の影響が軽減されているとあるが、その情報を地域住民にどのように伝えるのが課題だと思います。どのように対策するのか、一人一人が知って初めて効果が出ると考えます。オンラインで広めていくのか、地域集会を定期的に行い、参加をってもらうようにするのか。</li> </ul> <p>実際に昨年、災害があったときに清水市民全体がパニックになった。混乱したため、どのような対応をとるべきなのかは対策をするべきであると思う。</p> <p>[戦略4・地域づくりの方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少のための対策</li> </ul> <p>人口減少に関して、子供の出生率を上げるだけではなく、外部からの移住者の促進、海外からの移住者の促進が必要であると考えられる。出生率を上げるといっても少母化が進んでいる中ですぐにあげるとは難しく、その他の「教育、経済」といった様々な点を考慮する必要があるからである。また、日本の人口の約3割以上は都心に住んでいる（集中している）ということから、移住者の促進も出生率の向上と同様に必要な政策であると考えます。 <li>そのための対策（政策）</li> <p>移住者の促進に関して、「他県の学生との交流を図り、移住を考えてもらうきっかけを作る」とあったため、そのような活動は継続する。</p> <p>また、子供の語学や異文化理解に関する教育、「優しい日本語の普及」の政策を進めることで外国人の受け入れを促進する。また、そうすることで「子育て」の重要な要素である「教育」の魅力化が促進され、移住者の増加につながると考える。 <li>移住に関する評価をしっかりと伝える</li> <p>いい面だけではなく、悪い面も伝える。移住の際にすれ違いが起こらないようにする。</p> <p>都会と地方のすれ違い、摩擦が生じる問題も起きている。また、受け入れるためにみんなを迎え入れるような取り組みを行う（地域の集会、移住者との交流イベント）</p> </p></p>

	<p>自治体、住民、移住者との連携をしっかりととるようにする。いいことの発信よりも、マイナスなことを感じた人の発信の方が強い影響力を持つことがあるため、そういう点には注意するべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生を巻き込む。</li> </ul> <p>学生の発信力や意見は貴重であると考え、交流する機会、大学専門学校、高校へのアプローチを行う。定期的な集会を開くことで交流を図る。</p> <p>[戦略3]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの振興</li> </ul> <p>スポーツを活性化させていくという計画に関して、一つの地区だけではなくて複数の地区で連携していく、長期的な計画を立てていく必要があると考える。ドイツの「ゴールドンプラン」というスポーツ計画があるように、スポーツ施設を設ける、増やすという事でスポーツとふれあう機会が増え、健康の増加、地域のつながりの活性化が見込まれると考える。</p>
--	--

※誤字・脱字を修正した上で、総合戦略の指標に係る内容を抜粋して掲載しています。

※ [ ] 内は事務局で追記した内容となります。

東部地域会議 その他事前意見

<p>NPO 法人母力向上委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の妊娠出産子育ての理解を促進し現在の子育てを支援してもらおうこと、若い世代がいつか子育てをする時に必要な受援力を高めることを目的に開発した「Co 育てアシストプログラム」を、現在高校などの授業で実施しているが高校生や先生の評価も高い。高校や大学など人生の岐路に立つときに子育てを視野に入れるような取り組みを行うことが未来の少子化対策になると考える。</li> <li>・大学で奨学金を受給している学生は5割に迫っている。奨学金の返済がある中で20代はなかなか結婚に踏み切れない現実がある。奨学金返還支援制度を県としてももち、若者の貧困対策をすることが人口自然増につながると考える。</li> </ul>
<p>一般社団法人ママとね</p>	<p>【資料2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド22:一度県外へ出てしまうと、企業数など、環境的にも就職でなかなか戻りづらい。首都圏に勝る静岡の魅力（利便性、イノベーションやスタートアップなどの活性化の動き）が伝わるように引き続き尽力いただきたい。調べた時にビジュアルとともにわかりやすいサイトなどがあるとありがたい。</li> <li>・スライド23:ここに書いてあることに加え、さらに、子どもの高校や大学までの教育環境など、子どもが育っていくうえで将来や可能性が見えるようにしてほしい。リモートワーク且つ小さい子どもを育てている世代に、本当に根付いてもらうために必要。</li> <li>・スライド24:シッターや病児保育などの民間サービスが参入しやすく、そして連携する仕組み作りがほしい。移住者にとっては、実家などに頼れない環境となるためそういったサービスの需要がさらに拡大すると思われる。</li> </ul> <p>【資料6】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじさんっこ子育てナビは、細かい文章や文字をなかなか読む暇がない親にとって少し読みづらいので、見やすくしてほしい。</li> </ul>
<p>社会福祉法人伊豆社会福祉事業会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この、10年間で静岡県全体の人口流出は19万人、4.5%の減少です。東部の地域でも一部の例外を除いて人口減少に歯止めをかける事は喫緊の重要課題です。そうした現状の中、静岡県でも逆に人口が増加している自治体もいくつか存在します。全国に目を向けると更に人口増加の地域は幾つも存在します。住民が増える自治体と減っていく自治体、何が違うのでしょうか。</li> </ul>

	<p>北海道に 1994 年以來人口が増え続けている町が在ります。東川町は人口約 8500 人の小さな町ですが、この町には特筆すべきことがいくつもあります。その一つが人口増加です。北海道では 2015 年からの 5 年間に、人口は約 16 万人減少しています。そんな中で、東川町の人口は 5 年間で約 200 人増え、増加率は 2.7% で道内第 3 位です。</p> <p>東川町は人口増加のための町の取り組みを幾つも行っています。例えば子育て支援ひとつ見ても、妊産婦への清掃支援や昼食宅配サービス、生まれた子供に名前を刻んでその年のデザインの椅子を贈る「君の椅子」、保幼一体の幼児施設、中学卒業までの医療費無料、自然エネルギーや木材を多用したゆったりと建てられた小学校、自然を享受できる教育環境等。人口が増え続ける理由の一つではなく、そこに暮らす人々の住み良い暮らしに根差した色々な行政サービスをたゆまなく続けてきたことの集積です。</p> <p>学術、産業、生活の利便性は質・量とも地方とでは比べようもない程、首都圏が充実しています。進学先、就職先や便利な生活環境を求めて首都圏に人が流れるのは致し方無ない事に想われますが、住民と行政が協力し合っってその地域での暮らしを地域の特色を生かした住み良い環境の街づくりに取り組んで成功している自治体は幾つも在ります。その結果として住み良い環境の街に住みたいと共感した人々が移住して来るのだと思います。突飛なアイデアで奇をてらって一時的に人寄せをするのではなく。</p> <p>今、この地域に暮らす住民の生活が便利で、豊かに成る様、今この場に暮らす人々の生活こそ大切に考え、行政サービスを改善して増やして行くべきだと思ひます。今いる住人が生まれてから老齢になるまで安心して暮らせる環境作りこそが、人口増加の根本だと思ひます。</p>
<p>静岡経済同友会 東部協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの拡大、ウイズコロナを通して、AI(リモート学習、リモートワーク)は急速に進みました。しかし、アフターコロナの現在、経済活動が動き出すことによって、人口減少や高齢化社会の現実に直面しています。この人口減少による企業への負担は今後さらに増えてくると考えます。東部地域は中小企業の数も多く、今後の AI 化が進むにつれて、取り込みが難しくなる企業も出てくるでしょう。AI の幅の広い活用事例を増やしていくことで、政府や企業がそれぞれにとって必要な導入方法を見出して、社会に貢献できる枠組みを生み出すことができると考えます。</li> </ul>

<p>株式会社 静岡銀行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TECKBEAT 静岡（7/19～21 の 3 日間）の共同開催及び皆様のご協力につきまして感謝を申し上げます。 スタートアップ企業 102 社が出展し、3 日間で延べ 6 千人が来場致しました。 お客さまからの反応も良く、県内企業のスタートアップに対する意識の高揚を実感致しました。 今後も静岡県の活性化に向け、首都圏を始めとする県外資本の活用等にも努めたいと思います。</li> </ul>
<p>富士信用金庫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱海における盛り土の崩落から 2 年余りが経過しますが、このような事案の発生により地域の安全性に対して不安感を覚えます。市町において自然災害時におけるハザードマップは作成されておりますが、それぞれが居住する地域の安全性を確認できる造成マップ、盛り土マップの作成や情報開示のご検討をお願い致します。</li> </ul>
<p>静岡県東部地域 コンベンション ビューロー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当ビューローの活動について ここ 3 年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会議や大会等の開催を見送られる主催者が多かったが、昨年度後半になり、以前、中止や延期をされている団体の主催者から再度、開催するに当たっての問い合わせが増加してきている。 今後は、会議や大会等のリアル開催数は増加すると思う。</li> </ul>
<p>一般社団法人 富士山観光交流 ビューロー</p>	<p>資料 2 の内容について感想・自由意見を書かせていただきます。</p> <p>①戦略 3（P. 12）「黄金 KAIDO プロジェクト」について（資料 2 の記述内容ではなく計画についての要望） 中部・北陸圏では、名古屋から高山を經由して金沢、能登へ至る昇龍道プロジェクトが進められており、「西の昇龍道」に対し「東の黄金 KAIDO」と、このプロジェクトに期待を寄せています。「黄金 KAIDO プロジェクト」を調べますと新潟・佐渡金山—長野茅野市・金鶏金山—山梨身延町・湯之奥金山—清水≪フェリー≫土肥金山のルートになっています。 中部横断自動車道の活用や駿河湾フェリー振興もあり、ルート設定の意図は判りますが、このルートのサブルート（回遊ルート）として、身延(下部)—富士宮—富士—沼津—三島—土肥を設定していただけたらと思います。理由は二つ。身延町湯之奥金山は、富士宮市の朝霧エリアの奥に聳える毛無山にあり、同じ山を武田氏が身延側（甲斐）、今川氏が朝霧側（駿河）から金の採掘をしていた歴史があり、富士金山と記した書物もあります。もう一つ。中央道から清水に繋がった中部横断自動車道の区間開通は、朝霧エリアにとっては、ある意味心配です。（危機感を抱いている事業者もいます）</p>



	<p>このことから、陸路で土肥と繋がるルートの設定をしていただき、東部・伊豆地域の観光誘客を強力に進めていただきたいと思います。</p> <p>③今後の取組方針（地区別）東部地域（P.17）</p> <p>「富士山をはじめとする世界クラスの地域資源を・・・」について</p> <p>新型コロナと言う重しが外れ、観光的色彩が薄かった新富士駅にも多くの旅行者が訪れ、特に海外からの来訪者は非常に目立っており、7月の観光案内所の利用者は、過去最高を記録しております。このような中、富士山観光交流ビューローでは、来所する外国人利用者を対象としたアンケート調査を実施しており（10月迄の予定）、その中で困った事として「言葉の壁を感じる、交通乗り継ぎがうまくいかない、現金対応の店が多い」などの声が寄せられております。これらを踏まえ、プロモーションや営業活動の強化も重要ですが、旅行者の利便性向上のための「受け入れ側の取組」を強化することが急務だと考えます。</p> <p>また、県内全ての地域の記述に「世界クラスの地域資源を活用した・・・」と世界クラスを乱発していますが富士山エリアで活動するものとしては、日本のシンボル富士山の記述をもう少し際立たせていただきたいと思います。</p>
<p><b>株式会社結屋</b></p>	<p>・来年度から、美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議が終了される旨お知らせいただきました。</p> <p>本会議は、さまざまな立場の方が集まり多面的視点のご意見が伺えることはもちろん、行政の会議としてはめずらしく、1方向ではなく、会議参加者の意見に対して何かしらのフィードバック（返答）を毎回いただける貴重な会議でもありました。</p> <p>意見によっては、時に部署を横断しての情報収集の必要など、担当部署の方はご苦勞もあったとは思いますが、こうした意見を1方向で吸い上げるだけでなく相互にやり取りのできる機会が、稀有で貴重であり、今後何かしら形を変えたとしても、県政として継続いただけると良いと思いました。</p>
<p><b>日本大学国際関係学部</b></p>	<p>・IT化の促進</p> <p>IT化を促進するに当たり、現在行っている幼い頃からの教育、企業との連携は継続していくとともに、お年寄りのITに関する理解を深めていく必要もあると考える。一度の説明だと理解が不十分になってしまう可能性があるため、複数回の講座を用いる必要があると考える。</p>

※誤字・脱字を修正した上で、総合戦略の指標以外に係る内容を抜粋して掲載しています。

※ [ ] 内は事務局で追記した内容となります。